

## デイリーレポート

船長署名



船名	大島丸	情報発信日時	2024 年 7 月 11 日 12 時 00 分		
現在位置	航海中	時 分 概位	<Lat. - N/S Long. - E/W >		
	停泊中	時 分 概位	<Lat. - N/S Long. - E/W >		
	錨泊中	時 分 概位	<Lat. - N/S Long. - E/W >		
	操業中	時 分 概位	<Lat. - N/S Long. - E/W >		
	観測中	12 時 0 分 概位	屋久島沖 <Lat. 30 - 34 N/S Long. 130 - 26.9 E/W >		
本船状況 気象海象	針路： 適宜 度 船速： 適宜 kt 天候： c				
	風向： WSW 風速： 9.5 m/s 視界： 7 浬				
	波高： 1.2 m 風浪階級： 5 うねり階級： 2				
乗船者 状況	乗組員	現在員： 19 名 健康状態： 良好 不良	摘要：		
	生徒	現在員： 13 名 健康状態： 良好 不良	摘要：		
	指導教官	現在員： 2 名 健康状態： 良好 不良	摘要：		
	支援員	現在員： 1 名 健康状態： 良好 不良	摘要：		
○本船動静					
07月10日13時22分～07月10日15時46分 生物調査実習(底釣り実習)実施					
07月10日16時15分 生物調査実習海域(屋久島沖) 向け発航					
07月11日01時15分 生物調査実習海域(屋久島沖) 着					
07月11日06時00分～07月11日07時35分 魚群探知機による事前調査実施					
07月11日08時58分～07月11日11時25分 生物調査実習(底釣り実習)実施					
○避航・避難理由					
Nil					
【学校側コメント】					
<p>昨日の釣果は午後も今一つでした。黒潮の影響が生じているのか、調査海域付近の潮流が海面付近と海中深いところで流れが逆になる2枚潮と思われる現象で、水深240mのところでも海底に錘が到達するのには、400m近くリール糸を繰り出さなければならず、こうした現象がある時は、経験上釣果はあまり良くありません。その理由は、錘が海底に到達しても直ぐに道糸が潮流で吹き上げられ、錘は海底を離れてしまうので、目指す水深で仕掛けが落ち着かないためであります。それでも生徒達は頑張って実習に参加していました。船酔いしていた生徒も、動きは多少ごちない面はあるにしても、与えられた仕事を無難にこなしていました。</p> <p>船長は当調査海域の釣果が思わしくないこと、また気象・海象も芳しくないことから、調査の成果を上げるためにも海域の変更が一番と判断し、教官及び水族館スタッフとも協議した上で、これまでに実績のある屋久島方面へ夜間のうちに移動しました。</p> <p>そして朝より屋久島北方での底釣り調査を開始。この海域も深場は潮流の流れが思わしくありません。道糸の「ふけ」が大きく水深の2倍近く繰り出して、ようやく着底する状況でした。昼食前に浅場に移動し、調査を再開。すると今度はサバの入れ食い状態に……。午後の調査に期待します。</p>					